

職員による自己評価

A環境面
 ・玄関や施設内はバリアフリー仕様になっており、移動に配慮された安全な環境を整えている。
 ・児童の発達段階や姿勢を考慮し、背丈に合わせた机や椅子を準備することで、学習や活動が快適に行える環境を提供している。

B児童への支援内容
 ・公認心理師と共同開発したリッツプログラムを通じて、運動・学習・リラクゼーションの観点で日々一定時間の支援を提供している。
 ・個別学習プログラムでは、児童の特性や興味関心に応じたプログラムを実施し、コグトレ（認知トレーニング）を含む一人ひとりに適した支援を提供している。
 ・日々の児童の様子を細かく観察し、職員同士で評価・話し合いを行うことで、適切な支援が継続的に提供できるよう努めている。
 ・感覚統合やソーシャルスキルトレーニング（SST）などの療育的視点を取り入れ、子どもたちが安心して自己表現できる機会を増やしている。

C関係機関との連携
 ・必要に応じて専門機関（医療、福祉、教育機関）と連携を図り、児童の発達や行動面の支援計画を共有・実施している。
 ・保護者や学校と密に情報交換を行い、児童の成長を多方面からサポートしている。

D保護者への説明責任・信頼関係
 ・年に5回、保護者向けの勉強会・相談会を開催し、療育の考え方や支援の進め方について情報共有を行い、家庭での対応に活かせるよう支援している。
 ・写真付きの連絡帳を活用し、児童の表情や活動の様子を詳細に伝えることで、保護者との信頼関係を深めている。

E非常対応
 ・年2回、全利用児童を対象に避難訓練を実施し、災害時の安全確保の意識を高める。
 ・訓練時には児童の特性を考慮し、視覚支援（ピクトグラムや絵カード）や具体的な声掛けを行い、理解しやすい避難方法を身につけられるよう工夫している。

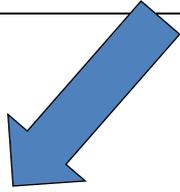
保護者による評価

A環境面
 ・子どもたちの発達段階や特性に合わせた机や椅子を整え、適切な高さや配置を工夫することで、学習や活動に集中しやすい環境を提供する。
 ・療育支援の専門性が高い職員が配置されており、子どもたちの個別ニーズに対応しやすい体制が整っている。
 ・利用者の人数や職員の配置を事前に共有することで、保護者や支援者が安心して利用できる環境づくりを目指す。

B児童への支援内容
 ・公認心理師監修の専門性の高い支援が提供されており、個別の発達課題に対応したプログラムが充実している。
 ・外出やイベントを通じて、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力を伸ばす機会が確保されており、楽しみながら成長できる場となっている。
 ・音読やプリント学習の時間が設定されており、認知能力や学習習慣の定着を支援している。
 ・夏休み期間中の活動は一定の枠組みの中で提供されていたが、学習や運動を中心としたプログラムが療育的にも有益であるため、今後も継続して実施するとよい。

C事業所からの情報発信
 ・SNSを活用した情報発信が行われており、保護者や関係者が施設の活動状況を把握しやすい。
 ・写真付きの連絡帳により、子どもたちの日々の様子が視覚的に伝わり、保護者との情報共有がスムーズに行われている。

D非常対応
 ・消防訓練が定期的実施されており、緊急時の対応力が向上している。
 ・子どもたちの特性に配慮した避難誘導の工夫や、職員の役割分担が明確化されると、より安全な環境が整う。



事業所内での分析

【共通点】

- 1. 環境整備**
 ・机や椅子の高さを児童の発達段階に応じて調整し、適切な姿勢で活動できる環境を整備している。
 ・バリアフリー対応や、安全に配慮した施設設計を行い、児童が安心して過ごせる空間を提供している。
- 2. 個々にあった支援プログラムの提供**
 ・児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援プログラムを実施し、学習や社会性の向上を図っている。
 ・感覚統合、ソーシャルスキルトレーニング（SST）、視覚支援など、多様な療育アプローチを取り入れ、児童の自己表現や対人スキルの向上を支援している。
- 3. 保護者会の実施と内容の評価**
 ・年5回の保護者会を開催し、療育に関する情報提供や意見交換を行い、家庭と事業所の連携を強化している。
 ・保護者からのフィードバックをもとに、支援の改善や新たな取り組みの検討を行っている。

【相違点】
 特になし（全体的に一貫した療育方針が取られている）

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 1. 特性に合わせた支援プログラムの提供**
 - ・児童一人ひとりの発達特性やニーズに応じた個別支援プログラムを実施し、学習面・生活面・社会性の発達を促している。
 - ・感覚統合療法、ソーシャルスキルトレーニング（SST）、認知行動療法（CBT）などを取り入れ、児童の自己理解やコミュニケーション能力の向上を支援。
- 2. 外出支援などの社会性プログラムの充実**
 - ・公共交通機関の利用や買い物体験など、実生活に即した外出支援を行い、社会適応能力の向上を図る。
 - ・公園やイベント参加を通じて、集団行動や対人関係のスキルを育む機会を提供。
- 3. 年5回の保護者会・勉強会の実施**
 - ・保護者向けに療育の知識や家庭での関わり方を学べる勉強会を開催し、支援の継続性を確保。
 - ・事業所と家庭が連携し、児童の成長を支えるための情報共有や相談の機会を設けている。
- 4. 写真付き連絡帳でのわかりやすい報告**
 - ・児童の日々の活動の様子を写真付きで記録し、保護者が成長や変化を実感できるよう工夫。
 - ・表情や行動の変化を視覚的に伝えることで、家庭での対応にも役立てられる。
- 5. SNS での情報発信**
 - ・活動の様子や療育に関する情報を定期的に発信し、保護者や関係者が支援の内容を理解しやすい環境を整備。
 - ・療育の取り組みや子どもたちの成長を伝え、地域や関係機関とのつながりを深める。

事業所の改善点

・特にマイナス意見はいただかなかったが、継続して満足いただけるように日々の情報共有やプログラムの工夫を行なっていく。

事業所の改善への取り組み

適切な支援プログラムを提供できるように、職員全体で児童の情報共有や意見交換を行なっていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

良い意見もたくさん頂け、職員のモチベーションになる。

マイナス的なご意見はほとんどなかったが、貴重なご意見をいただける機会と捉えていく。

事業所名 リッツ児童デイサービス港南台
担当者 森末 晋史